

**平成30年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画  
(スクールマネジメントプラン) (計画段階)**

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。</li> <li>・地域に根ざし、地域に愛される「地元の高い高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。</li> </ul> <p>1 学力の向上と希望進路の確保</p> <p>2 健康で安全な学校生活の維持</p> <p>3 学校行事の充実と発展</p> <p>4 部活動の推進と充実</p> <p>5 読書活動の推進</p>	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 校内清掃の充実</li> <li>2 地域や小・中学校に対して連携の充実に向けた取組の実践</li> <li>3 各種大会 (専門学科) での成果発表</li> <li>4 ボランティア活動の充実</li> <li>5 本校ウェブサイトなど充実した広報活動</li> </ol> <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業での、双方向のコミュニケーションの充実</li> <li>2 進路実現に向けてさらなる支援体制の充実</li> <li>3 広域通学に伴う保護者との連携強化</li> <li>4 部活動の充実と学習活動の両立に向けた工夫</li> <li>5 図書活動の充実</li> </ol>	<p><b>1 特色ある学校づくりの推進</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) TAFS事業の充実と、国際的科学者の育成を目指す海外研修の充実</li> <li>(2) 普通科研究コースKRP (桂リサーチプロジェクト) の取組の充実</li> <li>(3) 特色ある部活動と全校的な取組によるボランティア活動の充実</li> </ol> <p><b>2 学力の向上と進路希望の実現</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新しい学力観に基づく、各教科における学力向上を図る取組の充実</li> <li>(2) 希望進路実現のために進路意識の向上と主体的・計画的な取組</li> <li>(3) コース制による教育課程の成果と課題を整理し、新学習指導要領を踏まえた内容の改善</li> <li>(4) 生徒一人ひとりの進路実現に向けた組織的な取組</li> </ol> <p><b>3 生徒指導の徹底</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 規範意識の向上と基本的な生活習慣を確立する。</li> <li>(2) 自他の生命や人権の尊重を基盤に正しい判断力と実践力を育成する。</li> <li>(3) 生徒会活動、部活動等、積極的に自主活動を支え、より一層活気ある校風を樹立する。</li> </ol> <p><b>4 人権教育及び道徳教育の推進</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人権教育を推進し人権尊重の精神を養うとともに行動力を育成する。</li> <li>(2) 生徒一人ひとりに応じた支援及び指導体制を確立する。</li> </ol> <p><b>5 教育相談及び特別支援教育の推進</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒を支援し、自立を促す教育を充実させる。</li> <li>(2) 特別支援教育についての取組を充実させ、認識を深めて正確に理解し実践力につなげる。</li> </ol>

## 平成30年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、活力ある学校運営を行う。	1		
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆小・中学校との連携をさらに深めるため、公開授業や出前授業を実施する。	2		
	◇平成31年度入学者選抜の改善に向け学校の特色化を図る。	◆選抜方法の工夫・改善を行い、本校が求める生徒の募集につなげる。	3		
	◇SSHの取組の充実を図り成果を生かす。	◆平成30年度入学生の教育課程の効果的な実施と31年度以降の入学生の教育課程編成等について組織的に取り組む。	4		
		◆I期目成果を普通科を含めた教育活動に生かし、SSH事業を一層発展させる。	5		
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。	6		
		◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。	7		
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに情報を共有し組織的に取り組む。	8		
		◆文理選択・科目選択を適切に行えるよう、担任と各分掌が生徒及び保護者に対して的確な説明をする。	9		
	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆土曜授業を全学科において年間16回実施し、学力を向上させる。	10		
		◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。	11		
	◆各学年で、生徒の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。	12			
生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況について教職員にきめ細かな連絡相談、報告を行う。	13		
		◆生徒指導部と学年部、各分掌が連携して授業規律の確立、服装・頭髪指導、遅刻指導にあたる。	14		
	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるように、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。	15		
		◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭を全校生徒が自主的に取り組むような行事とする。	16		

特別活動等	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生涯にわたる基礎とする。	◆部加入率を高めるだけでなく活動内容も充実させ、学校全体を活性化する。 ◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、生涯学習の礎とする。	17			
			18			
進路指導	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導と援助を行う。	◆3年間の系統的な進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。	19			
	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために説明会やガイダンス等を実施し生徒の希望の進路を実現させる。 ◆生徒の実態に即した補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用する。	20			
			21			
人権教育	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にしたい教育を推進する。	◆日常の教育活動全般をととして人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせる。また、人権学習の講演や映画鑑賞を通じて自己と他者（社会）との関わりを考えさせる。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。	22			
健康・安全教育	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導に活用する。 ◆保健委員会活動を活性化し、生徒自らが健康、美化活動などに取り組む。	23			
	◇教育相談を充実させる。	◆心身に何らかの課題を持つ生徒に対し、教育相談支援会議等の支援体制を強化し、個に応じた支援を学校全体として取り組む。	24			
	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除を実施し校内美化と学習環境の整備を行う。	25			
読書活動	◇図書資料を活用した教育活動の推進を図る。	◆図書館利用の促進を図る。具体的には、各教科や特別活動において図書資料を活用した学習の推進及びウェブ上での検索システムを導入する。 ◆図書委員会の活動を活性化し読書への関心を高める。	26			
渉外・広報・事務	◇広報活動の充実し、学校情報の迅速に提供する。	◆ホームページを迅速に更新し、広報誌「桂だより」を地域に回覧するなど、本校の教育活動への関心を高め、理解を促す。	27			
	◇積極的な生徒募集、本校への志願者の増加の取組を実施する。	◆学校公開・説明会、部活動見学、公立学校合同説明会などを通じて、中学生・保護者に本校の学校経営の重点や今後の方向性などを十分に伝え、本校への志願者を増やす。 ◆保護者・PTA・学校評議員・学校評価委員との連携を強化し外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に生かす。	28			
			29			
			30			
	◇学校施設を整備・改修し、また広報活動を行	◆本校教育活動の円滑な推進と、生徒の安心・安全な教育活動の推進や来校者の印象向上に向けて施設設備を絶えず	31			

う。	点検整備するとともに、施設内の広報板等を活用し地域住民や来校者に広報活動を行う。					
----	--	--	--	--	--	--

研究・開発	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆これまでの成果と課題を踏まえて、さらに深化させた研究開発に取り組み、地域と連携して研究成果を活用するとともに、全国に情報発信する。	32			
	◇専門科目の授業、教科指導の充実・発展に取り組む。	◆TAFS(Training in Agriculture for Future Scientists)、専門学科の教科指導、総合実習、農業クラブ活動を通して、専門性を高めるとともに、規範意識を養う。	33			
		◆TAFSプログラムを核とした専門学科教育の中で主体的・対話的で深い学びを通し生徒の科学的・論理的思考力を高める。	34			

学校関係者評価委員会による評価	
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--